

# グリーン・モビリティ Green Mobility

自転車生活と人と地球の応援マガジン

Vol.7

ご自由にお持ち下さい

[www.green-mobility.jp](http://www.green-mobility.jp)

## ベルギー・ブリュッセル

環境先進国ヨーロッパの自転車事情

人と自然にやさしいエコ都市へ

バイオマス事業の可能性を探る

足田 智 連載第二回

「逆走」自転車は出会い頭事故の元凶

海のむこうの自転車文化がスクリーンに映し出される

BICYCLE FILM FESTIVAL





環境先進国ヨーロッパの  
自転車事情



# 人と 自然に やさしい エコ都市へ ベルギー・ブリュッセル

# Kingdom of Belgium Brussels

文/写真 柏原文

「グリーン・ブリュッセル」というスローガンを掲げ、エコ都市をめざすブリュッセル。近年、自転車道のインフラストラクチャーが急速に進められ自転車環境が整ってきた。しかし自転車利用者は人口の4%にも満たない。いまだ通勤ラッシュ時には、テールランプが延々と続く車社会だ。自転車人口を増やすための市の取り組みや、現地のサイクリストの声、最新のエコライフ事情をレポートする。

柏原文 ● 京都生まれ。外資系旅行会社に17年勤務の後独立。現在はトラベルコンサルタント、フリーライターとして活躍。2003年よりベルリン在住。  
<http://www.berlincafe.info> / E-mail: [aya@berlincafe.info](mailto:aya@berlincafe.info)



# 大規模サイクルシェアリングシステム 「VILLO(ヴィロ)！」ついに導入

システムはパリと同じ

パリで成功を収めている大規模なサイクルシェアリングシステムが、今年の春よりブリュッセルでも導入された。EU本部を構えるブリュッセルもエコ先進国として一歩前進し、足並みをそろえた形だ。現在おおよそ450メートルごとに約180箇所のステーションとよばれるレンタル・返却スポットが設けられ、約2500台の自転車が稼働している。24時間365日いつでも自転車を借り出すことができる便利さと、ラッシュ時には車よりずっと効率がよい乗り物であることを市民にアピールし、長年頭を痛めてきた交通渋滞の緩和に取り組む。

7段ギアで坂道も楽々

システムだけでなく自転車のデザインもパリとまったく同じ。26インチほどのサイズで性別や年齢、国籍を問わず誰にでも乗りやすい形だ。

昼夜問わず走行すれば点灯するしくみや、日本と同じハンドルブレーキで

あることなどもパリと変わらないが、異なっている点はギア数と、車体のペイント。パリでは3段しかないギア

も、坂道の多いブリュッセルでは7段になっており、坂道もまったく苦にならない。パリではシックな街並みにあわせてグレーの車体だが、ブリュッセルではポップな黄色にペイントされて登場。チェンカバーにはアヤマの絵が描かれている。湿地に美しく咲くアヤマの花がもともと湿地帯だったこの街のエンブレムなのだ。

パリと同じく自転車の総重量は22キログラムとかなり重い。しかしパリでも感じたことだが、これくらいの重さがあったほうが、石畳の多いヨーロッパの街を走るには安定感がありちょうどよいくらいだ。

気になるレンタル料

VILLO!の使用には、登録手続きおよび登録手数料が必要。住人用の一年パスは30ユーロ。登録の際に発行されるメンバーズカードをスタンドにかざすだ



けでレンタルができるため楽だ。旅行者などの短期利用者には1日チケットと7日チケットがあり、それぞれ登録料が1.5ユーロと7ユーロ。いずれの利用も最初の30分は無料で、30分以内に返却したレンタルしなおせば、登録した日数内は無料で乗り続ける。とはいえ自転車のあるステーションの配置を熟知していない旅行者にとって30分で乗り継ぐのは至難の技。通して借りる場合は、最初の無料の30分以降、次の30分が0.5ユーロ、その次の30分が1ユーロ、それからの30分毎が2ユーロとなっている。料金は登録したビザやマスターなどのクレジットカードから自動引き落としされるため、返却した後の控え書は必ずプリントしておきたい。パリでもすでに数年運営され成功しているシステムなので問題はないはずだが、何かあったときは自己責任との覚悟の上で利用し、控えは自分できちんと管理しておくことが大切だ。

EU機関職員の利用が牽引に

どんなに便利なレンタサイクルシス

テムが登場しても、ただそれだけでは車社会から自転車社会へと変貌を遂げることはない。しかし幸運なことに、ブリュッセルにはEU関連機関があり、自転車大国のオランダや、デンマーク、フランス、ドイツなど、自国で自転車通勤をしている外国人が多く住んでいる。実は、地元民でも旅行者でもない、そんな彼らが率先してVILLO!を朝晩のラッシュアワーに利用しているというのだ。それはVILLO!の利用価値を高めるだけでなく、自転車とはいままで縁の薄かった地元民にも通勤に自転車を利用してみようかと思わせる意味でよい宣伝効果になっているようだ。

ラッシュアワー時に訪れたEU本部のあるオフィス街。テールランプがどこまでも続く大渋滞の道路の中洲では、一台残らず借り出されたVILLO!のスタンドが光っていた。パリに続き導入された大規模なレンタサイクルシェアリングシステムは、ここブリュッセルでも確かに街に息つき始めている。

